

陽の里

発行 平成25年1月1日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.shinsei-kai.or.jp/>

No.114

テーマ 新年号 安全な離床介助を目指して



▶アドリア海から昇る朝日(シルクロード紀行より)撮影/石原美智子

新年 あけまして

おめでとうございます



社会福祉法人 新生会

名誉理事長

石原美智子

ご利用者の皆さん、学生さん、ボランティアさん、
そのご家族の皆さん、また、この機関紙に目を通して
下さったみなさん。よいお年をお迎えのこととお慶び
申し上げます。

私たち社会福祉法人「新生会」とそのグループは、
40年近い年月を「福祉」「ケア」という社会から与
えられたテーマを深め、広めていくことに努力をして参
りました。そしていま、団塊の世代が高齢者の仲間
入りをし、財源が厳しく、人手の少なくなった社会で
不安無く老いて行くためにも、保育園児から大人
まで「学ぶ」と「共に」をキーワードにより広い視野
で「福祉」と「ケア」を追求し、実践しなければな
らない時代になりました。

今年は今まで培ってきたものの上に、更に新しい実
践を積み重ねて、高齢社会のあるべき姿を目指して、
努力をしていく所存です。

今年もどうぞよろしく願っています。

安全安楽な離床介助を目指して②

笑顔のあるケア継続を

総合ケアセンター サンビレッジ 作業療法士 田中 拓郎

昨年実施した機関紙の「アンケート結果」では約9割の職員に「身体的介護負担を感じている」という結果が得られました。

介護現場で身体的重度利用者の移乗介助方法は「抱え上げ」という選択がほとんどであり、職員は腰痛を抱えながらの業務を日常的に行っている現状がありました。

「介護は人の手の温もりで行う」このような意識が介護現場では定着している印象を受けます。

今回の介護現場での「身体的介護負担の軽減」を目的に福祉用具の導入と、その後の介護職員へのアンケート調査を企画実施しましたので取り組みの様子と今後

への提案について報告致します。

今回の介護現場での「身体的介護負担の軽減」を目的に福祉用具の導入と、その後の介護職員へのアンケート調査を企画実施しましたので取り組みの様子と今後

への提案について報告致します。

今回の介護現場での「身体的介護負担の軽減」を目的に福祉用具の導入と、その後の介護職員へのアンケート調査を企画実施しましたので取り組みの様子と今後

への提案について報告致します。

今回の介護現場での「身体的介護負担の軽減」を目的に福祉用具の導入と、その後の介護職員へのアンケート調査を企画実施しましたので取り組みの様子と今後

への提案について報告致します。

今回の介護現場での「身体的介護負担の軽減」を目的に福祉用具の導入と、その後の介護職員へのアンケート調査を企画実施しましたので取り組みの様子と今後

への提案について報告致します。

今回の介護現場での「身体的介護負担の軽減」を目的に福祉用具の導入と、その後の介護職員へのアンケート調査を企画実施しましたので取り組みの様子と今後

への提案について報告致します。

への提案について報告致します。

リフト(離床機)介助は優しくない?

「介護は人の手の温もりで行う」この様な意識が介護現場では定着している印象を受けます。

日常的に利用者を抱え上げる2人介助は介護現場では介助方法のひとつとして実施されています。しかし、空中に抱え上げられた利用者は恐怖心から全身に力が入ってしまい、拘縮を助長してしまう危険な介助方法ともいわれ、転落による事故やそれに伴う障害の重度化や職員の腰痛発生など大きなリスクが潜んでいます。

実際に「ケアスタッフ2人対象者を抱え挙げる人の手の移動介助」よりも、「ゆつくりと声掛け

をしながら「ケアスタッフ2人対象者を抱え挙げる人の手の移動介助」よりも、「ゆつくりと声掛け

をしながら「ケアスタッフ2人対象者を抱え挙げる人の手の移動介助」よりも、「ゆつくりと声掛け

をしながら「ケアスタッフ2人対象者を抱え挙げる人の手の移動介助」よりも、「ゆつくりと声掛け

をしながら「ケアスタッフ2人対象者を抱え挙げる人の手の移動介助」よりも、「ゆつくりと声掛け

今後

〜みえた課題〜

リフト導入の研修会を実施し、実際にリフト使用を体験してきた事で移動方法の選択の中に機器や用具を使用する意識が高まり、介護スタッフの間で定着してきた事を感じています。しかし、まだまだ抱える介助が介護現場で残っているのも現状にはあります。利用者・職員が互いにリスクを抱えるのではなく、リフト使用によつて得られた心身への負担軽減と心のゆとりを対象者と過ごす時間や生活リハビリの提供などに1つ踏み込んだケアの実施に当たっていきたく感じています。

現在では、新人研修等の職員研修の場でノーリフトポリシー(抱えあげない介護)についての講習が実施されています。まずは「何の為にケアをするのか、なぜリフトを選択・使用するのか」ケアの本質を考える事がリフト導入・使用についても基本となると

現在では、新人研修等の職員研修の場でノーリフトポリシー(抱えあげない介護)についての講習が実施されています。まずは「何の為にケアをするのか、なぜリフトを選択・使用するのか」ケアの本質を考える事がリフト導入・使用についても基本となると

現在では、新人研修等の職員研修の場でノーリフトポリシー(抱えあげない介護)についての講習が実施されています。まずは「何の為にケアをするのか、なぜリフトを選択・使用するのか」ケアの本質を考える事がリフト導入・使用についても基本となると

現在では、新人研修等の職員研修の場でノーリフトポリシー(抱えあげない介護)についての講習が実施されています。まずは「何の為にケアをするのか、なぜリフトを選択・使用するのか」ケアの本質を考える事がリフト導入・使用についても基本となると

現在では、新人研修等の職員研修の場でノーリフトポリシー(抱えあげない介護)についての講習が実施されています。まずは「何の為にケアをするのか、なぜリフトを選択・使用するのか」ケアの本質を考える事がリフト導入・使用についても基本となると

現在では、新人研修等の職員研修の場でノーリフトポリシー(抱えあげない介護)についての講習が実施されています。まずは「何の為にケアをするのか、なぜリフトを選択・使用するのか」ケアの本質を考える事がリフト導入・使用についても基本となると

現在では、新人研修等の職員研修の場でノーリフトポリシー(抱えあげない介護)についての講習が実施されています。まずは「何の為にケアをするのか、なぜリフトを選択・使用するのか」ケアの本質を考える事がリフト導入・使用についても基本となると

けを行いなから確実に安全な動作で行うリフト移動介助」を比較すれば、どちらが対象者にとって優しいケアをしているかは明白だといえます。

以前より介護現場に福祉機器が導入されない理由に「業務効率が下がる」「人の手でやった方が早い」などの意見が聞かれています。まずは、現場職員と共に考えていく必要があると考え、今回の活動を機に施設内に「リフト

以前より介護現場に福祉機器が導入されない理由に「業務効率が下がる」「人の手でやった方が早い」などの意見が聞かれています。まずは、現場職員と共に考えていく必要があると考え、今回の活動を機に施設内に「リフト

以前より介護現場に福祉機器が導入されない理由に「業務効率が下がる」「人の手でやった方が早い」などの意見が聞かれています。まずは、現場職員と共に考えていく必要があると考え、今回の活動を機に施設内に「リフト

以前より介護現場に福祉機器が導入されない理由に「業務効率が下がる」「人の手でやった方が早い」などの意見が聞かれています。まずは、現場職員と共に考えていく必要があると考え、今回の活動を機に施設内に「リフト

以前より介護現場に福祉機器が導入されない理由に「業務効率が下がる」「人の手でやった方が早い」などの意見が聞かれています。まずは、現場職員と共に考えていく必要があると考え、今回の活動を機に施設内に「リフト

以前より介護現場に福祉機器が導入されない理由に「業務効率が下がる」「人の手でやった方が早い」などの意見が聞かれています。まずは、現場職員と共に考えていく必要があると考え、今回の活動を機に施設内に「リフト

以前より介護現場に福祉機器が導入されない理由に「業務効率が下がる」「人の手でやった方が早い」などの意見が聞かれています。まずは、現場職員と共に考えていく必要があると考え、今回の活動を機に施設内に「リフト



▲入浴支援で据え置き式リフトを活用中

委員会」を発足しました。委員会の設置により介護現場からの意見や求められるニーズ、それに対しての専門的意見が交換できる場を設定。また、アンケート・勉強会の実施、リフト使用に関して各部署でのフォローアップ、毎月の定例会にて課題やリスク等の共有を行いました。その後試験的に据え置き式リフトと立位式リフトを導入し、介護現場から機器の使用が負担軽減に効果的

思います。ケアを急ぐ必要はありません、介護職の腰は社会資源です。対象者の生活を支える為にも、ケアの手段の一つとして機器の使用が定着する為に、今後も継続して活動を進めていきたいと考えます。

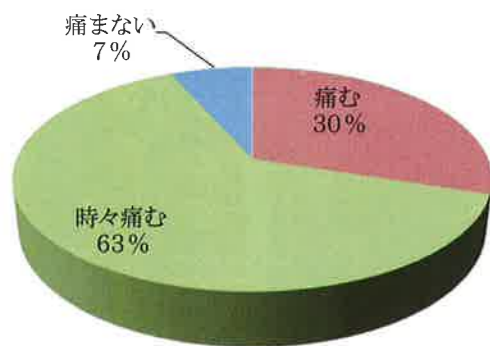
※注1 メンバーは介護現場チーフ、リーダー、作業療法士、福祉用具業者

※注2 介護労働者の身体的負担軽減し、雇用管理改善を促進するため、介護福祉機器(移動用リフト等)について、導入・運用計画を提出し、厚生労働省の認定を受けて導入した事業主に対して助成する制度。

※注2 介護労働者の身体的負担軽減し、雇用管理改善を促進するため、介護福祉機器(移動用リフト等)について、導入・運用計画を提出し、厚生労働省の認定を受けて導入した事業主に対して助成する制度。

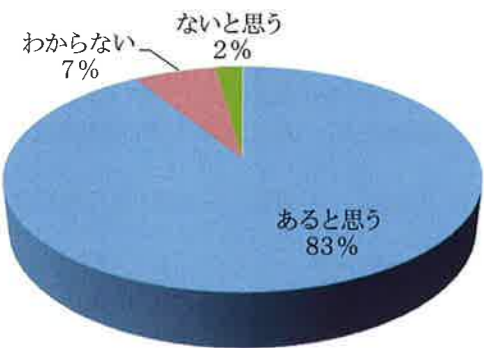
機器導入前アンケート

介助場面において、腰痛などの身体的負担はありますか?



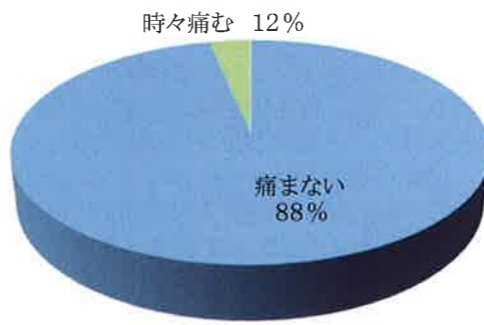
機器導入後アンケート

介助リフト等の導入により効果があると考えられますか?



機器導入後アンケート

介助場面において、腰痛などの身体的負担はありますか?



だというアンケート結果を得ることができました。この結果を受け、施設では「介護労働者設備等整備モデル奨励金」を使用した機器・用具の導入を実施しました。また、最もリフト稼働が多い浴室には、2週間の間、作業療法士がリフト使用のフォローに入り、使用の定着を図る事で、職員・利用者の不安軽減と使用定着を図りました。導入一ヶ月後には、チェックの為にフォローアップ研修を実施。現時点で不安な点やリスクの共有を行いました。導入当初は対象者個々に合わせたスリングシートの選定や慣れない介助・操作に負担を感じる職員も多くみられました。しかし次第に介助負担の軽減が体感的にわかる様になると心のゆとりも生まれて行くようになりました。

トピックス

～芸術の秋 地域の祭典～ 池田町文化祭!



今秋、池田町中央公民館にて、毎年恒例の「池田町文化祭」が開催されました。サンビレッジでも秋の大きな行事の一つとして、日頃施設やデイサービスを利用してみえる方々がクラブ活動や個人的にて制作された、手芸・俳句・書道・壁画などを出展させて頂いています。

当日は「私の書道が入選した!」「この人形を作る時には苦労したのよ」等と素敵な笑顔を見せて下さったり、ご近所のお知り合いと再会される等、作品鑑賞を通じて楽しいひと時を過ごされました。



～生き生き・ふれあい 家族交流会～ 「介護者の集い」へようこそ!



第1回介護者の集いでオムツについて説明を受ける皆さん

今年度もサンビレッジ新生苑にて在宅サービス利用者のご家族を対象とした「介護者の集い」が開催されています。

今年は「介護は介助者一人で抱え込まず、皆で支え合おう」「まずは介護者が元気に!」をテーマに交流の場を設けさせて頂いています。毎回、話は介護に留まらず、趣味や地域の話など多岐に渡り、「悩んでいたのは私だけじゃなかったのね」「まだまだ話したりない」等々、好評を頂いています。

今年度は既に「食事」「排泄」をテーマに開催させて頂きました。排泄介助に困ってみえるご家族に、オムツの当て方のアドバイスであったり、栄養・嚥下状態の低下がみられる利用者への、安全な食品選びや調理方法などを、作業療法士や栄養士、そして福祉用具事業者等と一緒に楽しみながら学ばれました。

～お待たせしました!～

サンビレッジ福祉フェア2012 開催



11月17日、サンビレッジ国際医療福祉専門学校で、総合ケアセンターサンビレッジ主催による「サンビレッジ福祉フェア2012」が開催されました。これは、施設や地域で生活する介護を必要とされる方の自立支援や、又その介護者も含めて負担が軽減されることを目的とした今年で4回目となる催しで、周辺施設やその家族以外にも、学生や地域住民など、大勢の方々に参加されました。

当日は、最新の福祉機器の展示や、食事や栄養・排泄・転倒予防を学ぶ講座など、実際の福祉機器に触れながら知識を学ぶことのできる様々な体験ブースが設けられました。

日頃介護をしてみえるご家族からは「今まで無理に抱えて介助して大変だったけれど、リフトを使うとこんなにも楽になるのね」等と驚きの声が聞かれたり、移動や食事・排泄の際に使用する福祉用具・自助具を手にとった利用者さんからも、「これは便利。使ってみたい!」等と好評を頂き、又参加した業者の方々からも「皆さんの意見が直接聞けて励みになります」との声が寄せられました。来年度も計画中です。ご期待ください。